

# 岡村桂三郎展

## OKAMURA Keizaburo

会 期：2008年9月13日(土)～11月24日(月・祝)  
休 館 日：月曜日（ただし9月15日、10月13日、11月3日、11月24日は開館）、  
9月16日(火)、9月24日(水)、10月14日(火)、11月4日(火)  
開館時間：午前9時30分～午後5時 [入館は午後4時30分まで]  
観 覧 料：一般700円(600円)、20歳未満と学生550円(450円)、65歳以上350円、  
高校生以下と障害者は無料です。( )内は20名以上の団体料金です  
会 場：神奈川県立近代美術館 鎌倉  
〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-53 (鶴岡八幡宮境内) tel.0467-22-5000  
主 催：神奈川県立近代美術館

このたび神奈川県立近代美術館鎌倉におきまして「岡村桂三郎展」を開催いたします。

岡村桂三郎(1958-)は、現代日本画界を引っ張る若手世代の旗手として、その活動が近年つとに注目されております。日本画ではありますが、岡村桂三郎の作品は、板のパネルを一度焼いて、その上に、岩彩で描き、板の表面を削ったりして、イメージを作り上げていくという、従来の表現では思いもつかない、斬新なものになっております。描かれた主題は、鳥や象から始まって、空想上の動物の龍やインドの伝説上の動物である迦楼羅<sup>かろうら</sup>といった動物にまで及んでいます。ただ、鳥や象にしても、現実のものを写實的に表現しているわけではありません。屏風仕立ての大きな板のパネルには、うねるように、また、うごめくように表現されたこれら動物たちが、そのイメージの孕む生命感により見る者を圧倒します。岡村桂三郎は、従来の日本画という枠を取り払うことを心がけ、ひたすら、北斎や若冲といった先達に肩を並べようと、見る者を驚嘆させるイメージを追求しているのです。岡村桂三郎は、自然と人間の結びつきの必要性を改めて考え直し、土俗的な雰囲気にあふれた作品を作り上げることに精力を注いでいます。現代の絵師、岡村桂三郎の近作から最新作まで大作20点による展覧により、新しい絵画の世界をご堪能下さい。

[関連プログラム(予定)]※いずれも予約不要、無料(ただし「岡村桂三郎展」の観覧券が必要です)。

◎作家によるアーティストトーク

日時:9月27日(土)、10月19日(日)、11月1日(土) 午後2時から30分程度

講 師:岡村桂三郎 会 場:神奈川県立近代美術館 鎌倉 展示室

◎担当学芸員によるギャラリートーク

日 時:10月4日(土)、11月15日(土) 午後2時から30分程度

会 場:神奈川県立近代美術館 鎌倉 展示室

このプレスリリースは美術館ホームページにも掲載されています。

[http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/press/2008r\\_okamura.pdf](http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/press/2008r_okamura.pdf)

美術館ホームページトップ: <http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/>

お問い合わせ先 神奈川県立近代美術館 鎌倉 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-53  
tel.0467-22-5000 fax.0467-23-2464 広報担当:平井、丸尾 展覧会担当:橋、朝木

《黄象 05-1LR》  
2005年 板、岩絵具  
東京国立近代美術館蔵  
撮影：末正真礼生



《一身四頭象 05-1》 2005年 板、岩絵具 個人蔵  
撮影：末正真礼生



《月の兎》 2006年 板、岩絵具 個人蔵

《迦楼羅 07-1》  
2007年 板、岩絵具  
個人蔵  
撮影：内田芳孝



《眼象 08-1LR》  
2008年 板、岩絵具  
個人蔵  
撮影：末正真礼生